**文学部　人文学科　人文学（人間科学）、および、国際コース・人文学（人間科学）　カリキュラム・マップ**

| | | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 3年前期 | 3年後期 | 4年前期 | 4年後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＜共通＞ | D.（他者を尊重する公平な姿勢）先行研究と自らの仮説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成することができる。<br>C-2-1.（知識・理解の深化と統合）本コース5つのそれぞれの専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得し、知識を有機的に総合し、論文を作成することができる。<br>C-2-2.（独創性）新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示しながら、論文を作成することができる。<br>B-3.（人間科学コース固有の課題）「人間」・「社会」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深め、学生自ら設定したテーマで論文を作成できる。 | | | | | | | 卒業論文 | |
| ＜言語学・応用言語学＞ | C-1-1.（文献分析力）本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。<br>C-1-2.（研究手法）本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究手法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。<br>C-1-3.（表現力）学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。 | | | 言語学・応用言語学演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ・Ⅷ（音声や文法などの構造的側面）、言語学・応用言語学演習Ⅳ・Ⅸ（諸方言・諸言語の間に見られる言語の諸類型（タイプ）に関する理論）、言語学・応用言語学演習Ⅴ・Ⅹ（脳科学などとも関連する心理言語学の実験）、言語学・応用言語学演習Ⅰ・Ⅵ・Ⅺ～ⅩⅩ（言語の歴史的側面・系統的側面・社会的側面） | | | | | |
| | | | | | | 言語学・応用言語学実習Ⅰ～Ⅱ（卒業論文作成に関わる実践的科目） | | | |
| | B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。 | | | 言語学・応用言語学講義Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ・Ⅷ（音声や文法などの構造的側面）、言語学・応用言語学講義Ⅳ・Ⅸ（諸方言・諸言語の間に見られる言語の諸類型（タイプ）に関する理論）、言語学・応用言語学講義Ⅴ・Ⅹ（脳科学などとも関連する心理言語学の実験）、言語学・応用言語学講義Ⅰ・Ⅵ・Ⅺ～ⅩⅩ（言語の歴史的側面・系統的側面・社会的側面） | | | | | |
| | C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。 | | | ＜共通＞の古典語・外国語から自由に3単位選択 | | | | | |
| ＜地理学＞ | C-1-1.（文献分析力）本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。<br>C-1-2.（研究手法）本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究手法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。<br>C-1-3.（表現力）学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。 | | | 地理学実習Ⅱ（自然地理学的調査や作図法の基礎） | | 地理学実習Ⅰ（卒業論文作成に必要な地域調査能力を高める授業） | | 地理学演習ⅩⅢ（卒業論文作成に実際に取り組む授業） | |
| | | | | 地理学演習Ⅰ～ⅩⅡ（政治・経済、都市・社会、農村・文化などの各主題に対応する形で、統計やアンケートの扱い方、専門文献の読解、プレゼンテーションと討論などの能力を養う授業）、地理学講読Ⅰ～ⅩⅡ（フランス語（Ⅰ～Ⅳ）・ドイツ語（Ⅴ～Ⅷ）・イタリア語（Ⅸ～ⅩⅡ）の文献を読解する授業）、地理学実習Ⅲ（地域調査法の基礎を習得する授業） | | | | | |
| | B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。 | | | 地理学講義Ⅰ～Ⅳ（政治・経済）、地理学講義Ⅴ～Ⅷ（都市・社会）、地理学講義Ⅸ～ⅩⅡ（農村・文化）、地理学講義ⅩⅢ～ⅩⅥ（その他の特定分野） | | | | | |
| | C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。 | | | ＜共通＞の英語・ドイツ語・フランス語の中から3単位選択 | | | | | |
| ＜心理学＞ | C-1-1.（文献分析力）本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。<br>C-1-2.（研究手法）本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究手法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。<br>C-1-3.（表現力）学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。 | | | 心理学研究法、心理学統計法、心理学実験Ⅰ～Ⅲ | | 心理学上級実験Ⅰ～Ⅱ（心理学的研究のテーマ・仮説を見つけ、文献を検証しながら、学生自身で心理学研究を実施できる能力を培う授業）、心理学演習Ⅰ～Ⅲ | | | |
| | B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。 | | | 心理学講義Ⅰ～Ⅳ（知覚・認知心理学）、心理学講義Ⅴ～Ⅵ（神経・生理心理学）、心理学講義Ⅶ～Ⅷ（司法・犯罪心理学）、その他心理学専門分野の授業科目 | | | | | |
| | C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。 | | | ＜共通＞の英語・ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語の中から、英語を1単位以上含みながら、3単位選択 | | | | | |
| ＜比較宗教学＞ | C-1-1.（文献分析力）本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。<br>C-1-2.（研究手法）本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究手法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。<br>C-1-3.（表現力）学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。 | | | | | 比較宗教学演習Ⅰ～Ⅷ（比較宗教学に関し、文献の読解方法や研究テーマの設定の仕方、フィールド調査やデータ分析の方法を段階的に身につける授業）、文化人類学演習Ⅰ～Ⅷ（文化人類学に関し、文献の読解方法や研究テーマの設定の仕方、フィールド調査やデータ分析の方法を段階的に身につける授業） | | | |
| | B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。 | | | 比較宗教学講義Ⅰ～Ⅷ、宗教史講義Ⅰ～Ⅳ、文化人類学講義Ⅰ～Ⅷ、社会人類学講義Ⅰ～Ⅳ | | | | | |
| | C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。 | | | ＜共通＞の古典語・外国語から自由に3単位選択 | | | | | |
| ＜社会学・地域福祉社会学＞ | C-1-1.（文献分析力）本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。<br>C-1-2.（研究手法）本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究手法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。<br>C-1-3.（表現力）学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。 | | | | | 社会学演習Ⅰ～ⅩⅡ（社会学の調査技法・実査を伴う授業）、地域福祉社会学演習Ⅰ～ⅩⅡ（地域福祉社会学の調査技法・実査を伴う授業） | | | |
| | B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。 | | | 社会学講義Ⅰ～Ⅵ（社会学理論の基礎）、社会学講義Ⅶ～ⅩⅡ（数理社会学・家族社会学）、地域福祉社会学講義Ⅰ～Ⅵ（地域福祉社会学理論の基礎）、地域福祉社会学講義Ⅶ～ⅩⅡ（福祉社会学・地域社会学） | | | | | |
| | | | | 社会調査法講義 | | | | | |
| | C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。 | | | ＜共通＞の英語・ドイツ語・フランス語の中から、ドイツ語またはフランス語を1単位以上含みながら、3短詩選択 | | | | | |
| ＜人間科学コース共通＞ | B-3.（人間科学コース固有の課題）「人間」・「社会」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深め、学生自ら設定したテーマで論文を作成できる。 | | | 言語学概論、地理学概論、心理学概論、比較宗教学概論Ⅰ～Ⅱ、社会学概論、人間科学統計入門 | | | | | |
| ＜国際コース共通＞ | B-4.（国際コース固有の課題）英語により日本の人文学を学び、外国語による思考力を鍛え、日本社会や国際社会の諸問題を表現することができる。 | | | 国際コースの学生はInternational Humanities Ⅰ～Ⅹ（英語による日本学の授業）各2単位を8単位修得する。この8単位のうち4単位までは人文学課題探求演習Ⅰ～Ⅲに代えて修得することができる。また、国際コースの学生は専門80単位のうち40単位以上をF科目（外国語により実施される科目）またはF/J科目（授業の一部で外国語を用いて実施される科目）で修得する（F科目、F/J科目であるかどうかは各授業のシラバスに表示される）。卒業論文（10単位）は外国語で作成された場合、F科目とする。また、外国語文献資料や外国語による研究成果を幅広く参照して作成された卒業論文の単位は、所定の申請書を提出した上でF/J科目に認定されることがある。<br>International Humanities（Ⅰ～Ⅱ: Introduction to Japanese History, Ⅲ～Ⅳ: Introduction to Japanese Literature and Language, Ⅴ～Ⅵ: Introduction to Japanese Art and Visual Culture, Ⅶ～Ⅷ: Introduction to Japanese Religions and Philosophy, Ⅸ～Ⅹ: Analyzing International Scholarship on Japan）<br>人文学課題探求演習Ⅰ～Ⅱ（長期の留学、海外での活動を単位として認める授業） | | | | | |
| ＜共通＞ | B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。 | | | | | 博物館に関する科目、図書館に関する科目、地域福祉の比較社会学、コミュニティの構造、情報機器操作入門、西洋古典学講義Ⅰ～Ⅳ、ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ、現代史入門Ⅰ～Ⅱ | | | |
| | B-1.（人文学の広範な知識と理解）人文学全般の多様な専門分野の基礎知識を身につけ、人文学固有の思考や方法を説明できる。 | 人文学基礎Ⅰ | 人文学基礎Ⅱ | | | 人文学 Ⅰ～Ⅳ | | | |
| | | | | | | International Humanities（Ⅰ～Ⅱ: Introduction to Japanese History, Ⅲ～Ⅳ: Introduction to Japanese Literature and Language, Ⅴ～Ⅵ: Introduction to Japanese Art and Visual Culture, Ⅶ～Ⅷ: Introduction to Japanese Religions and Philosophy, Ⅸ～Ⅹ: Analyzing International Scholarship on Japan） | | | |
| | C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。 | | | | | ＜古典語＞ギリシャ語Ⅰ～Ⅱ、ラテン語Ⅰ～Ⅱ、サンスクリットⅠ～Ⅱ、漢文Ⅰ～Ⅱ<br>＜外国語＞英語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語初歩Ⅰ～Ⅱ、フランス語初歩Ⅰ～Ⅱ、中国語初歩Ⅰ～Ⅱ、朝鮮語初歩Ⅰ～Ⅱ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、中国語Ⅰ～Ⅳ、朝鮮語Ⅰ～Ⅳ、アラビア語Ⅰ～Ⅱ | | | |
| | A-1.（主体的な学び）深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 | 言語文化科目（Intensive English、学術英語、専門英語、初修外国語）<br>国際コースの学生は言語文化科目は17単位が必修（国際コース以外の学生は12単位）。17単位のうち第一外国語（英語）は12単位、第二外国語は5単位が必修。 | | | | | | | |
| | | 文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、総合科目 | | | | | | | |
| | | サイバーセキュリティ基礎論 | | 高年次基幹教育科目 | | | | | |
| | A-2.（協働）多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。 | 課題協学科目、基幹教育セミナー、健康スポーツ科目 | | | | | | | |